



よむよむ

神川町立青柳小学校
2021. 10. 18
図書室便り No. 9

いよいよ読書月間が始まりました！

1学期に続き、10月12日から読書月間が始まりました。お家でも読書をすすめていただけると、子供たちは、より一層本に親しみを感じます。秋の夜長にぜひ家族で取り組んでください。

読書月間について



読書月間には、読書月間中に読んだ本を記録する読書カードが配られます。1年生から3年生は10冊、4年生から6年生は500ページを読むと、リンゴカードとしおりがもらえます。リンゴカードは、クラスに掲示されているリンゴの木に貼ります。たくさん貼って、リンゴでいっぱいにしましょう。日程は、10月12日から11月14日までとなっています。読書カードの裏面は、親子読書になっていますので、お子さんと一緒に読書を楽しみ、記入をお願いします。保護者の方に毎回おすすめの本を紹介していただいています。まだ紹介をされていない方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加ください。よろしくお願いします。

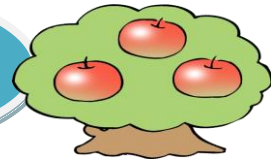
親子読書ピクニックがありました

町主催親子読書ピクニックとは、より多くの子供たちが読書を楽しめるように、毎年行われている取り組みです。（昨年は、コロナ感染予防のため中止でした。）青柳小学校の子供たちも参加しました。参加した子供たちの中で一番たくさん読んだのは、青柳小学校の4年生で、250冊でした。子供たちが読書に親しめる取り組みを町や学校も行っています。来年もありますから、ぜひ、参加してくださいね。





青柳小学校職員による おすすめの本の紹介



9月27日月曜日の昼の放送では、金井先生のおすすめの本を紹介しました。

皆さん、こんにちは。

今回は、特に5・6年生の皆さんにおすすめしたい本があります。その本の題名は、『おいで、アラスカ!』です。「あっ、読んだ!」と思った人もいるはずですよ。この本は今年の課題図書になった本です。オランダの作家、アンナ・ウォルツさんによって書かれました。では、紹介します。

主人公は12歳の少女パーケルと13歳の少年スフェンです。新学期の2週間の間に起こる出来事を二人が交互に語る形式で物語が描かれています。そして、二人をつなぐものとして1匹のゴールデンレトリバー「アラスカ」が登場します。二人の共通点は次の瞬間、何が起こるかわからない未来に強い「不安」を感じていることです。なぜなら、パーケルには両親が経営する店が襲われた経験があり、スフェンには「てんかん」の発作があるからです。この二人は、最初はお互いに悪い印象をもっていたのですが、何回か会話を重ねることによって、相手を少しずつ理解できるようになります。そして、協力して強盗犯を捜して後を追ったり、介助犬のアラスカにはてんかんの発作を予知する能力があることを発見したりします。やがて二人は、友情を深めていくのです。また、スフェンは「てんかん」を自分の個性として認めていくようになります。そして、クラスの仲間とも良い関係を築けるようになっていく物語です。

友達との関係がうまくいかなくて悩んでいる人や、今のクラスは自分にとってどんな存在なのか、よく分からずに過ごしている人は、ぜひ、この本を読んでみてください。今、この瞬間に起こる事や、次の瞬間に起こる事への不安を乗り越える勇気が湧いてきて、前向きな気持ちになれるはずです。そして、友情の大切さを知り、希望のある未来を身近に感じる事ができるのではないのでしょうか。それから、犬の大好きな人もそうでない人も介助犬のアラスカの存在にも気を付けて読んでみてください。「人間のために働く犬」には、たくさんの種類があります。皆さんのよく知っているのは盲導犬や聴導犬だと思いますが、他にも病気の人や心が疲れてしまっている人を癒してくれるセラピードッグがいます。また、警察で活躍している犬には、警察犬、麻薬探知犬、災害救助犬などがいます。

青柳小の図書室では、3番コーナーに「はたらく犬たち」という本があるので、こちらもぜひ調べて読んでほしいと思います。これらの本は、1年生～4年生におすすめです。「人間のために働く犬」を読むと障害のある方々との生活を知ることができます。障害のある人もそうでない人も一緒に助け合いながら生きていける社会の大切さに気づきます。そのために必要なバリアフリーやユニバーサルデザインといったものにも興味がわいてくるかもしれません。

このようにして今年の秋は、1冊の本から興味を広げる読書の秋にしてください。